ネギ「兵庫N-1号」栽培暦（チェーンポット育苗体系）

北部農業技術センター　2022年作成（2024年改訂）

月	旬	主な作業	防除のめやす	栽培のポイント
４月	上旬 中旬 下旬	播種 本田準備・土づくり		【播種】 ○播種時期は4月～5月上旬が適期で、自分の収穫開始期を勘案して決定。 （播種後約60日で定植となる） ○ネギチェーンポット育苗の手引きを参照
５月	上旬 中旬 下旬	液肥施用 基肥施用	特に注意する病害虫	【本田準備】 ○完熟堆肥、アヅミン、セルカ、BMようりんは定植の１か月前に全面施用し、耕耘する。本田は日当たり良く、排水良好なほ場を選ぶ 【排水対策】 ☆ほ場内に必ず明きょ等を設置し、水が溜まらないようにする 【液肥施用】 ○播種から約１か月以降に葉色が淡いようなら1,000倍程度の液肥を施用する 【剪葉】 ○ハウス育苗などでは草丈が20cm以上になると倒伏しやすいのでヘッジトリマーなどで剪葉する
６月	上旬 中旬 下旬	植え溝づくり 定植	コガネムシ類	【植え溝づくり・基肥施用】 ○土寄せ用の管理機及び中耕除草用機械の作業幅、ほ場耕土深を考え条間を決める ○植溝が蛇行しないように、石灰等で印を付け管理機で正確に深さ10～15cmの植溝を掘る ○平畝で定植する場合は、ヒモを一直線に張る ○定植溝は額縁明渠につなぎ、速やかに表面排水が出来るようにする ○定植溝又は株元にスーパーIBS890を30kg/10ａ施用するとともに亜リン酸粒状1号　30kg/10ａを株元散布または植溝土壌混和する 【定植】 ○時期は6月上中旬～、収穫開始期により決定。○定植前にチェーンポットに潅水する ○定植溝14mに一冊を配置する　　○ひっぱり君を使って定植を行う
７月	上旬 中旬 下旬	土入れ	立枯れ病 ネキリムシ類、ネギコガ ネギアザミウマ	【土入れ・中耕除草】 ○活着して新葉が伸びたころ、レーキ等で軽く溝の肩の土を落とす ○株元に生えた雑草は手取り除草を行う
８月	上旬 中旬 下旬	第1回　追肥	軟腐病、ネギハモグリバエ ネギアザミウマ、白絹病	【第1回追肥・土寄せ】 ○定植後約1ヶ月をめどに、地際から襟首まで10cm程度伸びてきたら行う ○土寄せは、葉鞘部（襟首）がかくれない程度にする ○燐硝安加里S604を10a当たり30kg施用する
９月	上旬 中旬 下旬	第２回　追肥 土寄せ 第３回　追肥 土寄せ	黒斑病、ｼﾛｲﾁﾓｼﾞﾖﾄｳ ネギアザミウマ、べと病	【第２回追肥・土寄せ】 ○第1回から約1ヶ月後、襟首が地上に伸びたら行う ○襟首の伸びが不十分な株が幾分残っている程度なら構わない ○燐硝安加里S604を10a当たり40kg施用する
10月	上旬 中旬 下旬	収穫・調製	黒斑病、ｼﾛｲﾁﾓｼﾞﾖﾄｳ ネギアザミウマ、さび病	【第３回追肥・土寄せ】 ○第2回から約1ヶ月後、襟首が地上に伸びたら行う ○襟首の伸びが不十分な株が幾分残っている程度なら構わない ○燐硝安加里S604を10a当たり50kg施用する ○最終の土寄せは、収穫の30日以上前に行う ○10月下旬出荷の場合は第３回の追肥・土寄せは実施しない。
11月	上旬 中旬 下旬			【収穫】 ○草丈60cm～80cm、軟白長20cm程度以上のものを収穫する 【調製】 ○外側の枯葉等を除き、汚れや病害虫被害のない葉を2枚以上残す ○汚れを布等で拭き取る 【雪害対策】 ○県北部での栽培では1月以降の出荷用は、茎葉の損傷を防ぐため雪よけ対策を行う ☆12～1月出荷の場合は、11月中旬に燐硝安加里S604を10a当たり30kg施用する ☆県南部での栽培では、12月以降に土壌が乾燥するため定期的に潅水する
12月				

圃場の観察・早期発見・適期防除

施肥体系（例）

肥料名	基肥(kg/10a)		追肥(kg/10a)			
	定植1ヵ月前	定植時混和	8月中旬	9月中旬	10月上旬	11月中旬
完熟堆肥	2,000					
アヅミン	40					
セルカ	100					
BMようりん	40					
スーパーIB S890		30				
亜リン酸粒状1号		30				
燐硝安加里S604			30	40	（50）	（30）

ネギ「兵庫N-1号」栽培暦（地床育苗体系）

北部農業技術センター　2022年作成（2024年改訂）

月	旬	主な作業	防除のめやす	栽培のポイント
４月		苗床準備	特に注意する病害虫	【苗床の準備】 ○苗床は、日当たりが良く、排水良好な場所を選ぶ ○本田10a当たり1.2aの苗床を用意する ○基肥は、播種の約1か月前に施用し土になじませる ○苗床は、幅100cmの平畝とし1畝にクワ幅の播き溝を2条つける ○排水対策を必ず行い、水が溜まらないようにする
５月	上旬 中旬 下旬	播種	ネキリムシ類	【播種】 ○播種時期は、4月下旬～5月上旬が適期である（定植時期により決定する） ○播種量は、10a当たり約200ml必要である ○播種後、乾燥防止のためもみ殻等で被覆する
６月	上旬 中旬 下旬	間引き 追肥 間引き 本田準備・土づくり	べと病	【間引き】（1回目） ○密生か所を整理する程度に間引く 【追肥】（1回目） ○1回目の苗床追肥は播種から約１か月後に施用する 【間引き】（２回目）※目標本数は10cm²当たり10本とする ○草丈が25cm程度になるまでに行う 【追肥】（2回目） ○2回目の苗床追肥は1回目から１か月後に生育を見て施用する ☆定植30日前には苗床への追肥はやめる
７月	上旬 中旬 下旬	追肥 基肥施用 植え溝づくり・定植 平畝・植え穴・定植	圃場の観察・早期発見・適期防除	【本田準備】 ○完熟堆肥、アヅミン、セルカ、BMようりんは定植の１か月前に全面施用し、耕耘する。本田は日当たり良く、排水良好なほ場を選ぶ 【排水対策】 ☆ほ場内に必ず明きょ等を設置し、水が溜まらないようにする 【基肥施用】 ○定植時植え溝にスーパーIBS890を30kg/10a施用するとともに亜リン酸粒状1号　30kg/10ａを株元散布または植溝土壌混和する 【定植苗の準備】 ○定植苗を10a当たり約30,000本用意する ☆苗採り時は根をできるだけ切らないように掘りとる ☆苗の葉先を切り、苗の消耗を抑制する
８月	上旬 中旬 下旬		ネキリムシ類、ネギコガ ネギアザミウマ 軟腐病、ネギハモグリバエ ネギアザミウマ、白絹病	【定植】 ○定植時期は、7月下旬～8月上旬とする ○定植は、3.5cm～4cm間隔に1本植えとする ○苗を大中小の3段階に分け、大きさ別に植え付ける ○植え溝で南北畝の場合は西側に植え、東西畝の場合は北側に植える
９月	上旬 中旬 下旬	第1回　追肥 土寄せ 第２回　追肥 土寄せ	黒斑病、ｼﾛｲﾁﾓｼﾞﾖﾄｳ ネギアザミウマ、べと病	【第1回追肥・土寄せ】 ○定植後約1ヶ月をめどに、地際から襟首まで10cm程度伸びてきたら行う ○土寄せは、葉鞘部（襟首）がかくれない程度にする ○燐硝安加里S604を10a当たり30kg施用する 【第２回追肥・土寄せ】 ○襟首が地上に伸びてきたら行う。 ○襟首の伸びが不十分な株が幾分残っている程度なら構わない ○燐硝安加里S604を10a当たり40kg施用する
10月	上旬 中旬 下旬	第３回　追肥 土寄せ	黒斑病、ｼﾛｲﾁﾓｼﾞﾖﾄｳ ネギアザミウマ、さび病	【第３回追肥・土寄せ】 ○襟首が地上に伸びてきたら行う。 ○襟首の伸びが不十分な株が幾分残っている程度なら構わない ○燐硝安加里S604を10a当たり50kg施用する ○最終の土寄せは、収穫の30日以上前に行う ○10月下旬出荷の場合は第３回の追肥・土寄せは実施しない
11月	上旬 中旬 下旬	収穫・調製		【収穫】 ○草丈60cm～80cm、軟白長20cm程度以上のものを収穫する 【調製】 ○外側の枯葉等を除き、汚れや病害虫被害のない葉を2枚以上残す ○汚れを布等で拭き取る 【雪害対策】 ○県北部での栽培では1月以降の出荷用ネギは、茎葉の損傷を防ぐため雪よけ対策を行う ☆1～2月出荷の場合は、11月下旬に燐硝安加里S604を10a当たり30kg施用する ☆県南部での栽培では、12月以降に土壌が乾燥するため定期的に潅水する
12月				

溝底植え　　平畝植え

施肥体系（例）

肥料名	基肥(kg/10a)		追肥(kg/10a)			
	定植1ヵ月前	定植時混和	9月上旬	9月下旬	10月中旬	11月下旬
完熟堆肥	2,000					
アヅミン	40					
セルカ	100					
BMようりん	40					
スーパーIB S890		30				
亜リン酸粒状1号		30				
燐硝安加里S604			30	40	(50)	(30)